

□海外文献紹介□

サルファサラジンは潰瘍性大腸炎で葉酸の吸収を阻害する

Sulfasalazine Inhibits the Absorption of Folates in Ulcerative Colitis: C.H. Halsted, G. Gandhi, T. Tamura (N Eng J Med 305: 1513 ~1517, 1982)

潰瘍性大腸炎疾患の患者でしばしば起こる葉酸欠乏は、サルファサラジンの使用に部分的に起因すると言われる。In vitro では、サルファサラジンは葉酸の腸管輸送や肝での葉酸酵素の阻害剤である。しかしながら、サルファサラジンの使用と葉酸の吸収不良の発現や欠乏との明らかな関連はまだ十分証明されていない。

著者らは、潰瘍性大腸炎の患者でサルファサラジンの使用と葉酸吸収不良および欠乏の関連について研究

し、殊にサルファサラジン投与患者と非投与患者での低血清葉酸値の頻度を比較した。

17人の潰瘍性大腸炎患者中、7人が1日2~4gのサルファサラジンの投与を受け、他の10人は投与を受けなかった。両グループ中の2人の患者には、1日0.1~0.4mgの葉酸を投与した。一晚絶食の後血清葉酸値が測定された。その結果、血清葉酸値は、サルファサラジン投与中の4人で低く、葉酸投与を受けた2人では正常値以上を示した。サルファサラジン投与群では非投与群より血清葉酸値が著明に低かった。投与群中葉酸投与を受けた2人を除くと、サルファサラジン投与群の5人中4人で血清葉酸値の低下をみたことになる。

以上より、この研究結果では、サルファサラジン使用と潰瘍性大腸炎

での葉酸欠乏との間に明らかな関連を認めている。サルファサラジンによる葉酸代謝の抑制機転は十分解明されていない。葉酸代謝の多くのステップで阻害作用を発揮する。肝内での3つの葉酸代謝酵素や、葉酸の小腸での運搬、更には空腸の刷子縁の葉酸結合酵素らに影響を及ぼすらしい。この研究は、サルファサラジンの投与を受けている患者で葉酸欠乏が起こりうることを示した。したがって、サルファサラジンを内服中の患者では、食事での葉酸摂取増強を図るか、食間にサルファサラジンを内服するか、あるいは葉酸製剤を処方に補充することにより葉酸欠乏が予防できることがわかった。

(愛知県がんセンター第1内科

小林世美 抄)